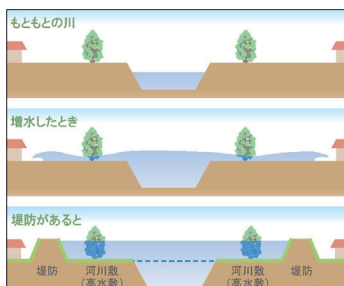


堤防の整備

堤防は、増えた水が人の暮らしにあふれないようにする役目を持っています。また同時に、川の断面積を大きくし、流下能力を高めているともいえます。河道掘削が下や横へ川を広げる方法とすると、堤防は「上へ」川を広げる方法といえます。



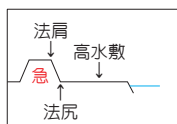
堤防の役割

昨今の災害等により改正された十勝川水系河川整備計画により、これまでの堤防では高さが足りない箇所や幅が足りない箇所では、所定の大きさに整備して安全度を高めています。

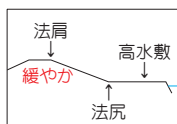
また、泥炭が分布し地盤が弱い十勝川下流部や利別川下流部では、堤防を安定させるため、堤防の斜面を緩やかにした「丘陵堤」の整備を行っています。



上流域の堤防

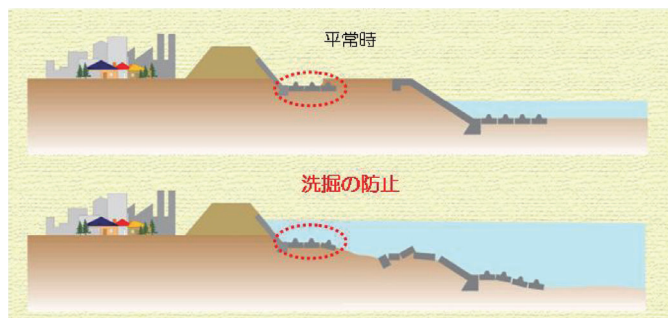


下流域の堤防



高速流対策

普段は地域住民の憩いの場となる高水敷も、洪水時には非常に速く大きな力を持った流れになるため、流れによって堤防や堤防の土台となっている地盤が削られ危険な状態になることがあります。そのため、堤防や堤防に接する高水敷にコンクリートブロックを敷き詰めて、強い流れが発生しても堤防が壊れることを防ぐための工事を進めています。



堤防補強

無堤地区解消を重点に連続した堤防の進捗に伴って、市街地周辺の堤防の重要性が相対的に増加しました。このような背景を踏まえ、堤防の進捗が図られた昭和 50 年代以降、帯広市のほか、音更町、池田町、本別町などの市街地を対象に、洪水時の堤防決壊により著しい被害が生じるおそれのある区間について、高水護岸の整備や掘削土を利用した側帯盛土等により堤防の補強が行われました。



シート矢板打設状況



法枠プレート
布設状況



間詰コンクリート
打設前



間詰コンクリート間詰完了

護岸・水制

川の流れによって河岸が浸食され、さらに堤防まで影響が及ぶと、洪水時に大きな被害が発生します。

こうした災害を防止するため、水の流れが堤防に接近しているような箇所では、コンクリートブロックなどによる低水護岸や水制を施工することによって、河岸を守って河道の安定化を図り、堤防の安全性を確保します。



護岸ブロックの敷設



水制

水制とは、大型ブロックなど流れにくいものを、川の流れと垂直方向に設置する工法です。水制には、河岸近くの流れの勢いを弱める効果があり、水制と水制の間に土砂堆積をもたらします。十勝川の上流や札内川のように、流れが急なところでよく見られます。



水制がない場合



水制がある場合